

「幸せは比べることができるか？」

2012年9月9日(日)

司会・文責：堀越

1. 概要；

- ・残暑が厳しい中、参加者総勢 24 名を迎えて、「比べる」ことをキーに「幸せ」について考え、語りました。自己の幸せを比べる対象として、自己が想像した他者の幸せ、自己の幸せ経験、思考実験『経験機械』による幸せ、について考え、参加者のそれぞれが思いを語り合いました。
- ・終了後に、カフェフィロの寺田さんより、「幸せ」に関する哲学史上の思索の歴史をご紹介頂き、例会での議論を振り返り、解説して頂きました。

2. 議論；

(0) テーマについて

- ・司会・テーマ選定者から、「テレビのチャリティー番組で『幸せを分けてあげる』との表現があったことを挙げ、他者の不幸を決めつけていることにならないか、違和感はないか？」という問題提起した。

(1) 幸せを感じる時はどういうときか？

- ・幸せを感じる時の主な事例は下記であった：
 - a) Kus さん； 布団に入り、眠る前のひととき
 - b) Ta さん； 自然の美しさ、心地よさに触れたとき
 - c) Kun さん； 仕事を休んだ日に、ふと何か自分を越えた存在から降りてくるような至福感
 - d) Mu さん； 他人の不幸と比べて、自分の状態を振り返り考えたとき

(2) 「他者の幸せと比べる」はどういうことか？

- ・自己が想像する他者の不幸を比べ、その不幸と比べるからこそ自己の幸せを実感できるのではないか。
- ・一方、その「自己が想像する他者の不幸」とは、あくまでも“自己が想像した”他者の不幸であって、その他者が本当に不幸かどうかはその他者でないと分からない。

(3) 「自己の幸せ経験を比べる」ことはないか？

- ・自己が幸せを実感するとき、他の何と比べなくても、人は自己の幸せの経験とは比べて、それが幸せかどうかを確認、実感するのではないか。
- ・何とも比べなくても、それが幸せと分かるような幸せはあるのだろうか。

(4) 思考実験；『経験機械』*1による幸せの選択とは？

- ・『経験機械』による幸せを選択するかどうかを参加者に問い、可否を尋ねると、賛否が分かれた；
 - a) 賛成 Yo さん：この現実世界であっても、本当にリアルかどうかは分からない（映画マトリックスのように培養液内で夢を見ているだけかも）ので、仮想・夢だからという理由では拒否できない。だから、確実に幸せが保証されている『経験機械』を選ぶ。
 - b) 反対 Ku さん：やはり嘘臭い。リアルでないなら、現実の方がまだままだから選ばない。
 - c) 保留 Te さん：その機械に設定されている幸せが、本当に将来に渡り自分にとって揺るがない、完全な幸せなのかが自分で自信がないため、躊躇し判断を保留したい。
- ・では、『経験機械』の設定を変え、自分にとっての幸せが将来の幸せの可能性・拡張性も含めプログラム化され、担保されたとしたら入るか？という問いが参加者から挙げられ、可否をそれぞれ語り合った。

*1：ロバート・ノージック著『アナーキー・国家・ユートピア—国家の正当性とその限界』より

(5) 「他者の不幸と比べる」ことは『経験機械』での幸せと比べる」とこと何が違うのか？

- ・自分の幸せと自己から見た他者の不幸を比べることが「他者の不幸を決めつける」ことになるのなら、『経験機械』で保証される幸せと比べることと何か違うのか。
- ・自己の不幸を「他者の不幸と比べる」ことが“他者の不幸”を“自己視点で”見ていることであるなら、両者とも「自己視点で比べている」ことなのか。

3. まとめ；

- ・“幸せを「比べる」ことができるときには、必ずその「比べる」主体は（仮想であっても）自己である”ことを確認でき、テーマ提起者としては有益であった。
- ・最後に参加者から「他者と共感した結果、その他者を可哀想と考えることは不遜か？」という問いが出されたが、次の機会の課題としたい。

以上